

オープンアクセス¹

NPO の運営と実際(4)

柴田 晋平

概要 今回は、楽しいNPOにするコツについて、これまでの経験をまとめたいと思います。これはいろいろな組織に応用できると思います。参考にしてください。

楽しい組織にするコツ

NPO 組織としての最大の力が発揮できるためのポイントはなんでしょう。

私は、メンバーが伸び伸び(自由に)活動できることだと思います。そのため、以下の4つのルールを守るとよいと思います。

個人は自由

当たり前のようですが、個人が組織よりも優先です。時として、組織が個人に命令を発する(圧力を加える)ような感じになることが起こります。その時、「個人は自由」と言う暗黙の了解を全員が持っている、嫌な時は嫌と言えます。冒頭に述べましたが、「メンバーが伸び伸び(自由に)活動できること」が第一の原則になります。

この指とまれの原則

「こんなことやってたらどうだろう、こんなことやってみたいな」と思ったら提案しましょう。やりたい人います?と「この指とまれ」とやります。それで、「いいね」と言う人が一人でもいたら、事業開始です。会員のこのようなアクションで「会の事業」が始まります。

事業内容について、「だめだよそんなの」、と周りの会員は言わないと言う約束もこの指とまれの原則に含まれています。やってみたいと言う人の足を引っ張らないということです。なんで


もやってみることが大事、思ったほどうまくいかなかったら、やめれば良いです。

「この指とまれの原則」で事業提案があったら理事会で承認しましょう。全くNPOのミッションと関係がなかったり、ミッションに反したりする提案はまずないと思います。しかし万一、そんな提案がでたときは、特例として承認しないでください。「個人は自由」と言う上位の原則がありますので、提案者は会に関係なく個人あるいは参加希望した人と、会には関係ないところで実行すれば良いです。

寛容の原則

「この指とまれ」の原則の中で、他人の足を引っ張るようなことはしないでと書きました。そのもとになっているのが「寛容の原則」です。

事業をやるいろいろな考えが出てきます。自分の考えと違う考えで行動する人も現れるでしょう。この時、大事なものは寛容の原則です。小さな天文学者の会で星空案内が始まった頃、いろいろな人が違った星空案内をすることになりました。いろいろあって楽しいと思うこともありますが、同時に、そんなこと言っていいんだろうか?と心配になり、結構、異文化交流でショックだったりしたこともありました。その中で培われてきたのが寛容の原則です。当時誕生した合言葉は、「宇宙のような広い心で!」です。

¹  この記事は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づくオープンアクセス記事です。引用の際は、著者名、題目、本会報名、No.、ページを明記ください。

言い出しっぺの原則

「この指止まれ」の原則での提案は提案者がそれを実行するのは当然ですが、そうではない提案もあります。

理事会などで、「〇〇した方がいい」とかの改善案、あるいは、「組織の責任として〇〇すべきだ」とか言うような提案が出てくることがあります。このとき、そのすべき内容の担当者が割とはっきりしていることがあります。例えば、会計に関する提案を実行するとすればそれは会計系の仕事になるとか、天文台で案内する人が実際にそれをやることになる、と言うふうに。こんな場合、提案者はその提案の実行者になるというのが「言い出しっぺの原則」です。

提案する時は、提案者は自分がそれをやると仮定してどれだけの労力がかかるか想像して、よく考えてから提案しなければなりません。それを確実に起こすために必要なものが「言い出しっぺの原則」です。逃げ道として提案者が「お友達のB君に実施をお願いして、B君がやってくれると言うので私はやらないけど提案します」と言うパターンになる場合もありますがこれも認めてはいけません。あくまで提案者が先頭になってやらないとだめです。

悲しい結果にならないために

「個人は自由」「この指止まれの原則」「寛容の原則」「言い出しっぺの原則」は円滑な組織運営のためには重要な原則です。これらの原則は理論的に考え出されたものではありません。じっさいに、小さな天文学者の会の中でいろいろな事件が発生して、その反省として生まれたものです。

土曜日の天文台での星空案内で、秋に人気なのはアンドロメダ姫が生贄に捧げられそれをペルセウスが助ける話があります。ギリシア神話の一つの著作として「ギリシア神話」と言う本があるわけではなく、たくさんの伝承の集合体です。決まった著者がいるわけでもありません。似た

話で違ったバージョンがあります。そのためアンドロメダが生贄になったわけとして、(A)カシオペアが自分自身を美人と自慢した、という話と、(B)カシオペアが娘のアンドロメダを美人だと自慢した、という二つのバージョンが存在します。(A)のバージョンで読んだ人が星空案内を(A)バージョンで話したのを、別の案内人さんが(B)のバージョンを知っていて、「おかしい」と思ったのです。この時、慎重であるべきなのですが、「あんたは間違っている」という発言になってしまったのが失敗でした。案内人の皆さんの集団の中で、嫌な空気になり、また、厳密に正しくないともずいと言うことで、(正しいか不安になり)どんな話もしにくくなりました。結局、このとき「あんたの話は間違っている」と言われた方は星空案内をやめてしまいました。

「お話し」は常に創作物で変化しても構わないと思うのです。いずれにせよベースにあるべきは「寛容性」です。

この話の中で私は「カシオペア」と書きましたが、星座名は「カシオペヤ」になっていて、「カシオペア」は間違いじゃない？と思ったら危険、寛容性を失っているので注意です。ギリシア神話の本では、カシオペアやカッシオペイアなどの呼び名が登場します。星座名は「ヘルクレス」となっていますが、ものがたりではヘラクレスが多いようです。厳密さを追求することのメリットはあまりなくて、寛容に星空案内することの方がメリットが大きいのです。

こんなこともあります。「この指止まれ」の原則で複数のグループがそれぞれのイベントを企画すると、日程が重なることが起こります。重なるとスタッフやお客さんの取り扱いになるから重ならないように調整すべきだという人がきつーと思えます。これも寛容の原則で気にせず日程が重なっても各グループが好きなようにやる方がうまくいきます。参加者は参加したい方に参加すれば良いです。日程調整に時間や神経をすり減らすのはいいことではないです。

「言い出しっぺの原則」の背景になる事実があります。それは、なにかのルールを作ったとして、そのルールを守り実行するために必要なマンパワーや費用は予想以上に大きいことが多いということです。なので、ルールを作るのは慎重にすべきです。(ただし、これは決めたルールはしっかり守る決意であることが条件です。きめても無理そうなら守れなくてもいいや、という気持ちで「なんちゃってルール」にするのであれば、それも一つの考え方です。)

「言い出しっぺの原則」がない時は、「〇〇すべき」で決めたルールを実行する人がものすごい業務になり、それができないと自分の責任だと思ってしまい、落ち込み、、、という危機がやってきます。実際、当会でも結果として担当者が耐えきれず、会を去っていくことになりました。こういう経験は一度だけではありません。ですから、「言い出しっぺの原則」はぜひ守るようにしましょう。

一つのルールが どのような波及効果を持つかの例

「NPO 活動では参加スタッフはボランティア保険に入ることを義務付ける」というルールを考えましょう。事故などを想定すると実際にそうした方が良いでしょうし、小さな天文学者の会ではではそうしています。

活動に参加する人を募って、社協のボランティア保険にお金を添えて登録することで実施できそうです。費用はNPOの組織として払うことにして参加スタッフから集金しなくて良いことにします。登録業務は手間ですが、めちゃくちゃ大変というわけではなく現在のマンパワーでこなせるだろうと判断できるでしょう。さて、この程度の業務で終わるのでしょうか。

そうではありませんでした。

まず、何かイベントをやることになりスタッフ募集してスタッフが集まったとしたら、そのイベントの世話人はスタッフが保険に加入になっ

ているかどうかを確認する必要があります。そのためには、総務はあらかじめ加入名簿を準備してオンライン上に配置し、イベントの世話人がその名簿を見ることができるようになります。世話人はその名簿で確認します。すると、まだ入っていない人が見つかります。するとスタッフ参加を断るか、急いで加入手続きをする必要が発生します。加入手続きは年に一回だと思っていたら、結構な頻度で、総務は社協に出向いて手続きをしなければなりません。加入者名簿を常に新しい状態にしておかないといけません。イベントの世話人もいつも同じ人ではありません。世話人への注意喚起が必要です。

毎年一度の保険の継続手続きも単純な保険の延長というわけにはいきません。最近では忙しくてボランティアスタッフとしては参加できないという人は継続しないということにしないと組織の経費を圧迫します。毎年、登録する人、継続しない人の判断を登録してもらわないといけません。これもなかなかすぐに継続・非継続の判定ができるものではありません。保険は実は二重に入れません。社協以外に別のボランティア保険に入っているから会としての加入は不要という人もいます。そのような事情の人も名簿上に掲載しないとイベントに参加できません。

会員は全員無条件にボランティア保険に加入するというのが一つの解決策かもしれません。会員名簿の維持管理も実はそれなりにめんどろなのですが、それはここではふれないことにします。

物損事故があり申請したけど、保険の適用外として支払いしてくれないことがありました。保険でカバーする内容の研究、周知が必要です。事故があれば手続き業務もあります。実は一度も保険適用を受けたことはありません。会の活動でどのようなことが予想されてそれが保険適用になるかの検討はしておいた方が良さそうです。

読者投稿

これ以上詳しくは述べませんが、ここでのわたしの趣旨は、「ルールを決定したために行うことになった業務は、当初思ったよりもはるかに大きな業務量であることが多い」ということです。ルールを作る時はルール設計はしっかりする

ことが望まれます。「言い出しっぺの原則」は絶対に必要な原則です。

参考文献

[1] 柴田晋平他、星空案内人になろう!、技術評論社、2007、ISBN 978-4-7741-3197-9

著者：柴田 晋平（しばた しんぺい）

創設以来の小天会員です。星空大好き。専門は宇宙物理学。理学博士、山形大学客員教授。

特定非営利活動法人星のソムリエ機構 代表理事。

shibata.shimpei@gmail.com

